



インターネットの接続って意外に簡単!

登場人物

薬学部の大学生:舞 大学の先輩:大輔 薬局の主人:修一郎 料理店の親父:通称「仙人」

【前回までのあらすじ】

大学生の舞と大輔は、料理屋「魚心」の主人=仙人から、薬局の古い電話機でもインターネットが使えることを教えてもらった。いよいよ、インターネットにつなげることになったのだが・・・

舞は、アパートに戻って、検索エンジンでインターネットに接続する方法を調べてみた。Googleを立ち上げて、次のように検索キーを入れた。

〔ADSL インターネット 接続方法〕 ポン

OCN、Yahoo!BB、Nifty、So-net・・・おびただしい数の検索結果が出てきた。一つ一つ読んでいたら、頭が痛くなった。

「どうしよう」舞は、大輔に助けを求めた。

「大輔さん、インターネット接続の方法をGoogleで調べただけで、情報がたくさん出てきて訳が分からなくなっちゃった」

「僕に言われても困るなあ。やっぱりそういうことは仙人に聞いた方が良いよ」

「そうね。困ったときの魚心頼みね。それじゃ、授業が終わったら魚心集合で！」

午前の授業を終えて駆けつけると舞が仙人と話しこんでいた。

「随分、熱心だなあ」

「2時限目が休講だったんで早く来ちゃった。基本さえ押さえれば、接続自体は意外に簡単そうよ」

「さっきとは言っていることがずいぶん違うんじゃない？」

「ところで、私は金目鯛を頼んだけど、大輔さんはどうする？」

「そうだな、今日は銀鱈の煮付けにしようかな。これがまた、旨いんだ」

「君たちは、転入の手続きをやったことがあるかな？」

仙人が唐突に奇妙な質問をぶつけてきた。

「アパートに引っ越したときにやりましたけど・・・。どうしてですか？」

「転入手続きのときに、転入先の住所を書くだらう？パソコンも同じで、インターネットに接続するためには、住所が必要になるんだよ」

「パソコンの住所ですか？」

「インターネットを使えば、アメリカでも中国でも何処にでもメールが送れるよね」

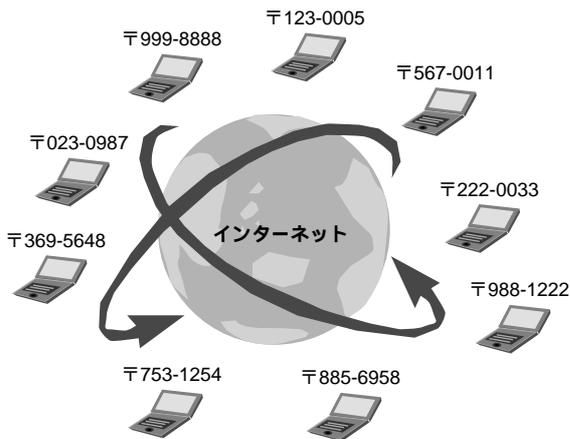
「でも、良く考えてみると、大変なことだと思わないかい？何億台もつながっているパソコンや携帯電話に間違いなくメールが届けられるんだから」

「・・・確かに。そう考えると不思議ですね。何でそんなことが可能なんでしょう？」

「それは、インターネットに接続しているパソコンには、IPアドレスという世界中でただ一つの住所が振られているからなんだ。だから、郵便物がきちんとその住所に着くように、メールも指定

されたアドレスに届くんだよ。」

「インターネットを使うためには、このIPアドレスが必ず必要なんだ」



「IPアドレスって何ですか？」

「“IP”はインターネットプロトコルの頭文字をとったものだよ。インターネットの中だけで通用する住所という意味なんだ。インターネットにつなぐためには、このIPアドレスを正式にもらう必要があるんだよ」

「世界でただ一つ、どこかで聞いた歌詞みたいですね。それじゃ、大学みたいにたくさんパソコンを持っている所は、パソコンの台数分のIPアドレスが必要なんですか？」

「いや。今はその必要はなくなっているよ。昔は、パソコン1台1台に、IPアドレスを割り当てていたんだが、パソコンが普及してインターネットにたくさんつながってくると、IPアドレスが無くなってしまおうという心配が出てきたんだ」

「何だか、石油資源の枯渇問題みたいですね」

「今では、IPv6という規格が出てきて、ほとんど無限にIPアドレスが使えるようになっているけれど、今までのIPv4と呼ばれる規格では、2の32乗個しか無かったんだよ」

「2の32乗というと、え〜と…64億個以上もあって、かなりの数なんじゃないですか？」

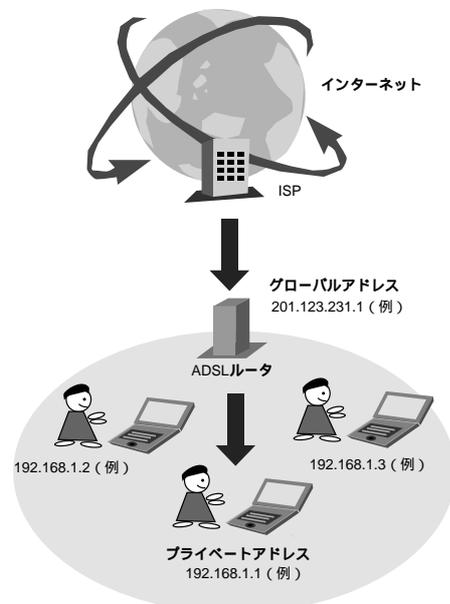
「でも、地球の人口は60億人を越えているし、パソコンだけでなくテレビや冷蔵庫などもインターネットにつながるようになると心細い数なんだ」

「64億個以上でも足りなくなるんですね。」

「そう。今では、インターネットに接続するときだけ使うアドレスと家庭や大学の内部で使う共用のアドレスを分けてるんだよ。内部では決められた範囲のアドレスを自由に使って良いようにしたんだ。インターネットに接続するときだけ使うものをグローバルアドレス、内部で使うものをプライベートアドレスと言うんだ」

「へえ〜」

「言わば、会社の代表電話番号がグローバルアドレスで、会社内の内線電話の番号がプライベートアドレス、と言ったところかな」



「グローバルアドレスはどのようにすれば入手できるんですか？」

「それを配って管理してくれる会社が、インターネット・サービス・プロバイダーで略してISPと呼ぶんだ。舞ちゃんがGoogleで調べた時にたくさん出てきたOCNとかNiftyがISPだよ」

「ISPからもらうんですか。てっきり、電話番号みたいにNTTからもらうのかと思いました」

「NTTなどの電話回線を持っている会社は、情報を運ぶという意味でキャリアと言うんだ。ISPは、キャリアから回線を借りてインターネットが快適に使えるようにサービスを提供しているんだよ」

「具体的には、どうすればグローバルアドレスをもらえるんですか？」

「IPアドレスは、ADSLルータに設定されるんだよ。パソコンは、このルータを介してインターネットにつながっているんだ」

仙人は、奥の部屋に置いてある弁当箱のような装置を指差した。

「ルータを電話回線に接続すると、グローバルアドレスがISPから送られてきて自動的に設定されるんだ。パソコンのLAN (local area network) ケーブルをルータに接続すると、逆にプライベートアドレスがパソコンに設定されるという仕組みだよ。インターネットを使うときには、パソコンのプライベートアドレスをグローバルアドレスに変換してくれるんだよ。面倒な設定はルータが自動でやってくれるんで、舞ちゃんが設定するところは、ほとんど無いんだよ」

「本当につながるだけで良いんですか？信じられないなあ」

「インターネットがこんなに普及したのは、このルータと呼ばれる装置が安くて高性能になったからなんだ。この中には、パソコンをインターネットに接続するためのノウハウが詰まった小さなコンピュータが入っているんだよ」

「そうなんですか。電話線にルータをつなげるだけなら出来そう。安心しました。でも、どこのISPを頼めば良いか迷っちゃいますね」

「どこを選んでも、大きな違いはないけれども、月額料金やサービス内容が違うから、予算や目的にあったISPを決めれば良いのさ」

「どんなISPがあるんですか？」

「ISPは大きく3つに分類できるんだ。一つは、Niftyなどのパソコン通信からISPになった会社、二つ目が、Yahoo!BBなどのポータルサイトが前身の会社、最後が、OCNなどのキャリアの関連会社がやっているISPで、それぞれ特徴があるよ」

「わかりました。薬局のおじさんと相談して決めたいと思います。だいふ、すっきりしました」

と、話をしているうちに、大輔が頼んだ銀鱈の煮付けが出てきた。表面がうっすら醤油で覆われていて、箸を入れるのが惜しいくらいの煮姿だ。横に大根が添えてある。

「いただきま〜す」

舞が早速話しを持ちかけると、修一郎は将来的にホームページを開設したいという。ホームページのサービスが充実しているYahoo!BBを選ぶことにした。

舞は自宅のパソコンからYahoo!BBのホームページにアクセスして、修一郎から聞いた薬局の電話番号や住所を入力して申し込みを行った。あとは、インターネットに接続するためのADSLルータが送られてくるのを待つだけだ。

数日後、修一郎から電話がかかってきた。

「舞ちゃん、Yahoo!BBという所から、小さな段ボールが送られてきたよ」

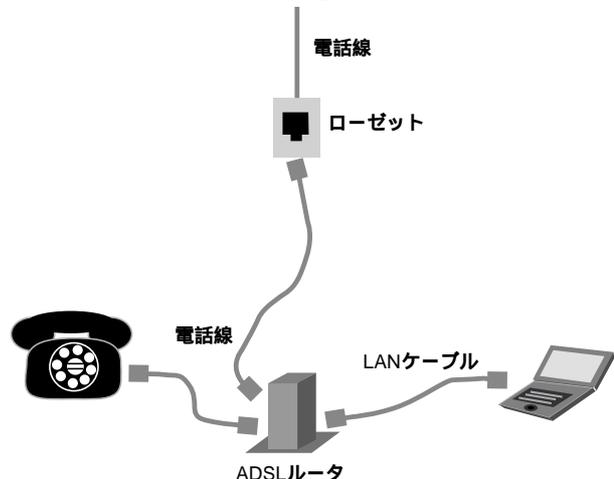
「了解です。大事なものだから、取り扱いに気を付けて下さいね。すぐ行きます」

舞が梱包を解いていると、大輔がやってきた。

「舞ちゃん、抜け駆けはずるいよ。僕にも決定的な瞬間に立ち合せてよ」

「決定的瞬間とはオーバーね」

段ボールの中には、小さな弁当箱のようなルータとマニュアル、接続図、ケーブルが入っていた。マニュアルは、小さな字で書かれていて読む気にならず、舞は、接続図を見ながらケーブルをつなげはじめた。始めに電源ケーブルをコンセントにつなぐと小さなランプが光った。



「まず、電話機をローゼットから引きぬいて、代わりにルータの電話のマークの所に電話機をつなげるのね。それから、ローゼットに、この箱に入っていたケーブルをつないで、ルータの回線というところに挿すのね。えい」

すると、ランプがチカチカして赤いランプが青に変わった。これで、ISPからグローバルアドレスが配られたのだ。

「次に、パソコンの電源を入れて、LANケーブルをつなぐのね」

同じようにランプが点滅して、もう一つの赤いランプが青に変わった。パソコンのプライベートアドレスの設定も、これで完成したようだ。

「さあ、ブラウザを立ち上げてみるわよ」
舞は、eと書かれたIEのアイコンをクリックした。GoogleのURLをキーボードから入力すると、おなじみの画面が出てきた。

「やったー。おじさん、つながりましたよ」

「おー、ついに、我が家のパソコンも念願のインターネットにつながったか。ようやく鎖国が解かれたという感じだね。舞ちゃん、大輔くん、ありがとう」

「あとは、このマニュアルに書いてあるYahooBB!のサイトにアクセスして、電子メールのIDを取得すればとりあえずは、完了です」

「ついでに、そこまでやってくれないかな」

「わかりました。IDは私が決めて良いですか？」
「好きなように決めて良いよ」

舞はYahoo!BBのホームページにアクセスしてIDの取得を行った。

「IDはkero3...にしました。今後は、kero3...@yahoo.ne.jpというアドレスでメールのやり取りができますので、メモしておいてください」

「何だか、大学に入って学生番号を貰ったみたいな感じだね。来週は、実際の使い方を教えてね」

「わかりました。しばらくは、色々なホームページを見ていてください」

舞は、自分でもこんなに簡単にインターネットとの接続が出来るとは思っていなかった。薬局での初の仕事らしい仕事が終わって、充実感を味わいながらアパートに戻った。

【次回に続く・・・】